

面 生 新

水俣病の恐ろしさは、現地の漁民ばかりでなく、一時魚の流通が混乱したほど一般家庭にもショックを与えた。

ところが一年ぶりにまた危険水域周辺で魚をとっているそうである▼水俣市漁協は昨年、工場廃水の補償協定で新日窒から三千五百万円を受け取っている。

去る六月には水俣病被害補償金として二億八千万円を要求したが、会社側は原因が究明されていないからと拒否している▼仲に入った回にわたってあつせんしたもの、取りつく島もない双方の基本方針の差にいま中止の状態にある。だから漁業補償交渉促進のための苦肉の策とも考えられないこともない▼死亡率四〇％というこわい水俣病の原因は何であるか、関係方面であらゆる角度からの研究が進められている。とくに熊大内田教授が水俣湾内のムラサキイガイのなかから有機水銀化合物の結晶を抽出したことは、最大の決め手になりそうだ▼しかし、その「断」が下るまでにはまだ曲折が想像され、会社側も反証を準備するだろうし、第一に漁協が算定した巨額な補償金の基礎には疑惑をもっているから、恐らく金銭補償の点についてはウンとはいうまい▼それは昨年漁民に渡された三千五百万円が、生活の立ち上がりには十分な効果をあげていないと判断しているからであるろう。会社側はすべてを拒否しているのではない。

工場の下請け会社へ就労させる、また漁業振興会社ができるれば出資するハラを示している▼すでに二十人ほどが工場へ就労を希望しているというので、解決の接点ができつつあるとみてよいであろう。一方危険海域周辺に出漁している漁民たちは、すき好んで魚をとっているのではないのだ。しかし売らぬといっても市場へ与える影響は非常に大きいのだ▼今年もすでに四人が水俣病と診定されてい免である。